

【アジア太平洋環境開発フォーラム(APFED)を開催】

生物多様性など、地球環境をテーマに、アジア太平洋地域の国々や国際機関から推薦を受けた有識者（議長：川口順子参議院議員）らが集まる、環境省主催の国際会議を石川県において開催。また「生物多様性と里山里海」をテーマに、会議出席者と県民が共に考える公開シンポジウムも併せて開催した。

概 要

- 日 時 : 7月30日(木)～8月3日(月)
- 場 所 : 和倉温泉 加賀屋ほか
- 日 程 :
 - 7.30(木) : 研究プロジェクトの審査会合
 - 7.31(金) : 本会合(谷本知事が石川県の取組について特別講演)
 - 8. 1(土) : 環境国際シンポジウム(APFED 賞授賞式)
 - 8. 2(日) : 本会合 → 最終報告とりまとめ
 - 8. 3(月) : 現地視察(輪島朝市、千枚田、能登町合鹿地区)

(環境国際シンポジウム in 能登概要)

- 日 時 : 8月1日(土) 13:00～17:00
- 場 所 : 能登演劇堂
- テーマ : 「生物多様性と里山里海」
- 参加者 : 約600名(一般参加者含む)

APFED本会合において、石川県の里山里海の利用・保全の取組について知事が特別講演を行った。

シンポジウムでは、体調不良で来日できなかったインド・エネルギー資源研究所長のラジェンドラ・パチャウリ氏(※2007年ノーベル平和賞受賞)からのビデオによる講演のほか、APFED議長の川口順子参議院議員、女優の若村麻由美さん、国連大高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニットのあん・まくどなど所長によるトークセッションや、東京農大教授の進士五十八氏をコーディネーターに迎えてのパネルディスカッションなど生物多性とり山里海海の将来のあり方について、活発な議論が行われた。

また、持続可能な社会づくりに向けた本県の取り組みに対して、今回特別に創設された「APFED石川県特別賞」では、計6件の取り組みが表彰された。

【環境映像祭 in 金沢を開催】

映像の力を通して、生物多様性をはじめとした環境問題への理解と認識を深めることを目的に、国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニットの企画、主催により「環境映像祭 in 金沢」を開催。

概要

- 日 時：1日目 平成21年10月4日（日）10時～18時
2日目 平成21年11月14日（土）13時半～17時
- 場 所：1日目 金沢21世紀美術館 レクチャーホール
2日目 金沢市文化ホール 大会議室
- 入場者：1日目 延べ202人
2日目 84人

- 主 催：国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット
- 共 催：金沢市、アース・ビジョン組織委員会
- 後 援：石川県、財団法人森林文化協会、北國新聞社、外務省、文部科学省、環境省

映像祭1日目は、1992年の地球サミットを機に、毎年東京で開催されている「アース・ビジョン地球環境映像祭」での受賞作品の中から、小さな子供も楽しめる短編作品を中心に上映。また、地元の若手映像制作者の「里海」をテーマにした作品や、国連大学メディアスタジオの制作した世界各地の気候変動が先住民族の生活へ与える影響を取材した作品、さらには、東北の山村における100年以上に及ぶ「入会権」闘争を記録、取材した長編ドキュメンタリーなども併せて上映された。

2日目は、今年の「アース・ビジョン地球環境映像祭」最優秀賞受賞作品が上映され、オーストラリアから招かれた監督との意見交換会、さらには「環境意識と映像の力」をテーマとしたパネルディスカッションも開催。来場者には、一般県民はもちろんのこと、行政関係者、NPO関係者、大学教授、学生、留学生、1次産業従事者など、幅広い分野から多数の参加者があった。パネリストには、上映作品の監督の他、NHKプロデューサーと国連大学メディアスタジオ監督も加わり、環境映像の制作に対するそれぞれのアプローチの仕方やこれからの方向性などについて様々な意見が交わされた。両日ともに、会場には多くの来場者が訪れ、映画上映の合間の会場との意見交換でも活発な議論が交わされた。